

Subject : **Japanese**Production of Courseware
e- Content for Post Graduate CoursesPaper No. 02 : **日本語学 (Japanese Linguistics)**Module 26 : **談話 (Discourse)**

Development Team

Principal Investigator:**Prof. Anita Khanna**

Jawaharlal Nehru University, New Delhi

Paper Coordinator:**Prof. Prashant Pardeshi**

The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Content Writer:**Prof. Emerita Yuriko Sunakawa**

University of Tsukuba

Content Reviewer:**Prof. Shingo Imai**


University of Tsukuba

Japanese

Japanese Linguistics

談話 (Discourse)

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	談話 (Discourse)
Module ID	JPN-P02-M26
Quadrant 3	Learn More

 ePathshala
पाठशाला
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

談話 (Discourse)

Quadrant 3: Learn more

さんこうぶんけん

参考文献

- 庵功雄 (2007) 『日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版.
- 北原保雄 (監修)・佐久間まゆみ (編) (2003) 『朝倉日本語講座 7 文章・談話』朝倉書店.
- 串田秀也・定延利之・伝康晴 (編) (2005) 『シリーズ文と発話 1 活動としての文と発話』ひつじ書房.
- 串田秀也・定延利之・伝康晴 (編) (2007) 『シリーズ文と発話 3 時間の中の文と発話』ひつじ書房.
- 串田秀也・定延利之・伝康晴 (編) (2008) 『シリーズ文と発話 2 単位としての文と発話』ひつじ書房.
- 久野暲 (1978) 『談話の研究』大修館書店.
- 熊谷智子・木谷直之 (2010) 『三者面接調査におけるコミュニケーション—相互行為と参加の枠組み』くろしお出版.
- 甲田直美 (2001) 『談話・テキストの展開のメカニズム』風間書房.
- 崎田智子・岡本雅史 (2010) 『講座認知言語学のフロンティア 4 言語運用のダイナミズム』研究社.
- 佐久間まゆみ (編) (2010) 『講義の談話の表現と理解』くろしお出版.
- 佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一 (編) (1997) 『文章・談話のしくみ』おうふう.
- 砂川有里子 (2005) 『文法と談話の接点—日本語の談話における主題展開機能の研究—』くろしお出版.
- 高崎みどり・立川和美 (編) (2008) 『ここからはじまる文章・談話』ひつじ書房.
- 高崎みどり・立川和美 (2010) 『ガイドブック 文章・談話』ひつじ書房.
- 筒井佐代 (2012) 『雑談の構造分析』くろしお出版.

日本語記述文法研究会（編）(2009) 『現代日本語文法 7 第 12 部談話・第 13 部待遇表現』
くろしお出版.

ポリリー・ザトラウスキー (1993) 『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考
察—』くろしお出版.

三牧陽子 (2013) 『ポライトネスの談話分析—初対面コミュニケーションの姿としくみ』
くろしお出版.

メイナード・K・泉子 (1997) 『談話分析の可能性—理論・方法・日本語の表現性』くろ
しお出版.

メイナード・K・泉子 (2004) 『談話言語学—日本語のディスコースを創造する構成・レ
トリック・ストラテジーの研究』くろしお出版.

Usami, Mayumi (2003) *Discourse Politeness in Japanese Conversation: Some Implications for a
Universal Theory of Politeness*. Tokyo: Hituzi Syobo

Interesting facts

- 談話標識 (discourse marker)

「えーと」「さあ」などは、^{じっつてき い み} 実質的な意味をもたず、^{じゅうよう やくわり は} あまり重要な役割を果たして
いるようには^{おも} 思えない^{げん ごけいしき} 言語形式だが、^{だんわ こうぞうか} これらも談話を構造化するものとして^{いってい やくわり} 一定の役割
を果たしている。例えば、「えーと」「あの一」「っていうか」などは、^は 話の間^{たと} つな^{はなし ま} ぎとして^{きのう} 機能し、^{はな て しあんちゆう} 話し手が思案中であるという^{しんてきたいど しめ} 心的態度を示しており、^{い じ} ターンの維持に
^{やくだ} 役立っている。また、「で?」「だから?」「でしょ?」などは^{き て はつわ うなが} 聞き手の発話を促す

はたら も あいて ゆず きのう は ほか
働 きを持ち、ターンを相手に譲るといふ機能を果たしている。この他に、「では」
はなし かいし きのう たと はなし てんかい きのう
「じゃあ」などは話を開始する機能、「そして、例えば」などは話を展開する機能、
わだい か あらわ きのう
「さて」「ところで」などは話題が変わることを表す機能、「こうして」「というわ
けで」などは話を終了する機能を持つ。

だんわひょうしき よ だんわ たんい くぎ だんわ こうぞう めいかく
これらは「談話標識」と呼ばれるもので、談話の単位を区切り、談話の構造を明確
しゅかいき たいじんかんけい にんげん にんちじょうたい かん きのう は
にするとともに、社会的な対人関係や人間の認知状態に関するさまざまな機能を果た
けいしき たと ゆうびんきょく たず わ
す形式である。例えば、「郵便局はどこですか」と尋ねられて、「分かりません」と
こた わ こた ほう ていねい へんどう かん
答えるよりは、「さあー、分かりません」と答えた方が丁寧な返答であると感じられる。
き て しあん たいど しめ
これは、「さあー」によって、聞き手のために思案しているという態度を示し、それに
ひていてき へんどう きけんせい かいひ
よって否定的な返答をすることの危険性を回避しているのである。

Schiffrin, Deborah (1987) *Discourse Markers*. Cambridge: Cambridge University Press.
